

# 第 45 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

## 議事メモ

日 時：令和 2 年 8 月 7 日(水) 13:15~14:45

場 所：県庁 6 階 第 1・第 2 特別会議室

### 1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、富川 副知事、島袋 政策調整監、  
金城 知事公室長、池田 総務部長、宮城 企画部長、普天間 環境企画統括監、  
宮沢 県警本部長、名渡山 子ども生活福祉部長、大城 保健医療部長、長嶺 農林水産部長、  
嘉数 商工労働部長、下地 観光政策統括監、上原 土木建築部長、  
伊川 会計管理者、金城 教育長、田仲 医療企画監、永山 企業企画統括監、  
系数 保健衛生統括監、真栄城 医療企画統括監  
〈県専門家会議委員〉高山 中部病院感染症内科医師

### 2 報告事項

#### (1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から新規感染者発生情報について、本日の結果は集計中であるとの報告があった。
  - ✓ 那覇市松山地区を対象に実施した集団 PCR 検査の結果が含まれており、本日の新規感染者数は 100 名以上になる見込み。
- 病院事業局から、各県立病院に入院している新型コロナウイルス感染症患者の状況について報告

#### (2) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から米軍基地内の陽性者発生情報や日本人基地従業員を対象に検査した状況等について報告

#### (3) 沖縄県内及び全国の感染状況について

- 総括情報部から警戒レベル判断指標の状況及び本県の「直近 1 週間の人口 10 万人あたり新規感染者数」の状況について報告
  - ✓ 警戒レベル判断指標については、本日の結果は集計中であるため、昨日時点の数値を説明。直近 1 週間の人口 10 万人あたり新規感染者数は 31.57 で

全国ワースト1位。2位の東京（17.9）を大きく引き離している。

#### （４）宿泊療養施設の運用状況について

- 総括情報部から那覇市内、八重山地区で運用している宿泊療養施設の利用状況等について報告
  - ✓ 現在運用している宿泊療養ホテルについては、県職員や保健所でどうにかローテーション勤務体制を組んでいるが、宿泊療養施設を増やすためには、看護師や保健師が不足している。
  - ✓ 本島中北部地域と宮古島地域にも宿泊療養ホテルを開所するために準備中である。

#### ＜主な意見＞

- 子ども生活福祉部長から、宜野座村の保育施設や那覇市内の高齢者施設でクラスターが発生し、各関係機関と連携しながら対応している状況について報告があった。

### 3 議 題

#### （１）PCR検査の検査対象について

- 県専門家会議委員から、8月5日に開催した専門家会議の結果、重点医療機関で実施するPCRの検査対象から、緊急的な対応として、濃厚接触者でも無症状でリスクが少ない人達を一旦、対象外とする案について、その提案理由と合わせて説明があった。
  - ✓ 感染拡大の状況から、県民の間でもかなり不安が高まっている。症状もなく不安だからという理由で、そもそも検査対象とは言えない人達が、検査を希望して医療機関に殺到している状況にある。
  - ✓ 松山地区を対象に実施したような大規模な検査は、感染の広がりやクラスター対策という観点からは意義があったが、今の流行状況を鑑みると、検査対象を整理する必要がある。
  - ✓ 県内の流行状況について、疫学分析では、実行再生産数から、今の状況であれば1週間に781人、1日に約100人ずつの新規陽性者が出る見込み。一方、県

民が感染対策に協力すると、1日の発生数は30人程度まで抑えることができる。

- ✓ 現在は若者中心に流行が拡大しており、入院者数は少ないが、感染対策に県民の協力が得られなかった場合は1週間に約100人の入院者が出て、協力が得られると16人程度に押さえられる。
  - ✓ 現在の重症者数は4人だが、今後、県民の協力がなければ50人まで増えることが想定され、協力が得られると6人程度に抑えられる。
  - ✓ このような疫学的な分析結果は、医療現場が頑張ればなんとかなる状況でも、県民が頑張ればなんとかなる状況でもなく、医療現場と県民が力を合わせて努力して、ようやくこの危機を乗り越えられるかもしれない、という状況にあることを示している。
  - ✓ 保健所や行政の都合ではなく、医療の現場から、専門家会議で議論した上で、医療を守るために、重症化を防ぐために、緊急的な措置としてPCR検査の対象を集中化していただきたい。
  - ✓ 医療の現場では、濃厚接触者であっても、症状がなければ治療はできない。つまり、発症してから検査をしても、その方達への医療は適切に行われる。
  - ✓ 4月は濃厚接触者で発症していない人には検査をしてないが、流行は押さえ込むことができた。
  - ✓ 学校や保育施設等の無症状者を対象とした一斉検査が重点医療機関に依頼され、検査に一日中かかり、治療に手が回らなくなる事態が生じており、回避しなければならない。
- 総括情報部から、専門家会議からの意見を踏まえ、緊急的な措置として、PCR検査の対象者の考え方を見直す案について説明があった。
- ✓ 症状がない濃厚接触者でも、職業等によって検査対象とするかどうかは、保健所長の判断による。
  - ✓ 学校や事業所などにおいて、一斉検査の実施を希望する場合は、県内の医療を守るため、県外の検査機関に依頼するなどにより対応いただきたい。

- ✓ 必要な人には検査を受検できるよう、検体採取ができるクリニックを増やしているところであり、現在 100 カ所以上のクリニックと調整を進めている。
- ✓ 不安な人についても、コールセンターで相談に乗り、必要な人には医療機関や検査機関を案内するようにする。
- PCR 検査の対象者を見直す事について了解された。ただし、検査を受けられないかもしれないと、多くの県民が不安に感じる可能性があるため、医療の状況や疫学的な分析に基づいた丁寧な説明が必要であることについて、確認された。

## (2) 自宅待機者対応コールセンターの運用について

- 総括情報部から、自宅待機者対応コールセンターにおける業務の状況について説明があった。
- 同コールセンターに動員される職員について、毎日人が替わると、新しく動員された職員に業務内容を説明するために時間を取られてしまう。また、自宅療養者からも、毎日違う人が相談相手になっているような状況で不安を感じるという声がある。
- 各部局からの派遣職員は、できるだけ同一職員で、1 週間単位で対応できるように、提案し、了解を得た。
  - ✓ 総務部から、動員職員が連休中に休みゼロとなるようなことがないように、労働環境に配慮して対応していただきたいと意見があった。

## 4 閉 会

PCR 検査の対象を見直す事等について、専門家会議委員も同席いただいた上で知事から記者発表する事を確認し、閉会とした。